
第18回 通常総会 議案書

日 時 2025年2月22日（土）16時00分～

場 所 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
岩見沢市1条西4丁目3 ☎0126-24-9901

1. 開 会
2. 理事長あいさつ
3. 議長・議事録署名人の選任
4. 議案審議
 - 第1号議案 2024年事業活動報告
 - 第2号議案 2024年活動決算報告、監査報告
 - 第3号議案 2025年事業活動計画
 - 第4号議案 2025年活動予算
 - 第5号議案 役員改選
 - 第6号議案 定款の変更
5. 議長退任
6. 閉 会

第1号議案 2024年事業活動報告（2024年1月1日～12月31日）

当NPOの設立から18年目を迎えた2024年は、そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの設立15周年でもあり、長年にわたる各取り組みの成果を含め、様々な活動主体等との連携も増加し、非常に密度の濃い1年となりました。当NPOとしても、また日本遺産「炭鉄港」としても、牽引役であった吉岡前理事長亡き後の、新たなステージに向かう中で、会員の皆様はもちろんのこと、各方面より様々なお力添えを賜りながら活気溢れる活動が展開できました。また、前年に引き続き、より一層の認知度向上と、地域における歴史文化に即したまちづくりの正当性が評価されつつあると感じると共に、それらがさらなるファン層の獲得につながっているものと考えています。

以下、事業ごとの2024年の活動についてご報告いたします。

※活動計画に対する達成度：○＝達成 △＝途上 ×＝未了

※拠点の略称：MC＝マネジメントセンター、CM＝夕張市石炭博物館

■出版事業

×できませんでした

■動画配信事業

○ぷらぷらまち歩きスペシャルの告知や当日の様子、炭鉄港関連のフォーラム等12本をYouTubeチャンネルで配信しました。チャンネル開設後、視聴回数3万3千回超え、登録者数470名弱となり、新たなファンの獲得の他、現地参加できない方からも楽しみにしています、という声をいただいています。

■炭鉱遺産事業

○ぷらぷらまち歩きの実施

定番を16回、スペシャル回を7回の合計23回実施し、延べ人数715名の参加者がありました。（2023年は全15回、444名）これをきっかけに会員になった方も多く、確実にファンが広がってきていると思います。

○奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み

敷地公開は5/3から5/6全4回、延べ443名参加。このうちガイドツアー（300円）参加229名。（奔別公開に合わせ5/6限定で幾春別神社を歩く特別企画を実施し、参加者は32名）

8/10から8/15全5回、延べ495名参加。このうちガイドツアー（300円）参加266名。毎年恒例となっており、早くから訪問を予定に入れて道外から来る方も多いです。草刈りなどの周辺整備をNPO会員と実施。空知地域の炭鉱遺産のシンボリック的存在である奔別炭鉱を、三笠市とともに活用しています。

○各種活動団体等との連携強化

炭鉄港に関係する団体との取り組みが増えています。主に次のような団体と連携を進めました。

1月 日本遺産交流（播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道 活動団体）平野理事長参加

1月 未来へ繋がる炭鉄港魅力発掘事業（北海学園大学、道教育大学岩見沢校、北海商科大学、札幌大学）

6月 Jヘリテージ前畑さんVR視察

6月 江別炭鉄港関係者（錬鉄の会）との相談

8月 岩見沢市教育委員会 郷土科学館での展示相談

9月 炭鉄港推進協議会と、いわみざわ情熱フェスティバル「炭鉄港めしフェスタ」に出店

10月 空知シーニックバイウェイ協議会キャラバンでのルート設定やガイド（岩見沢・夕張）

11月 旧永山邸歴史教室 平野参加

12月 講演会「小樽の歴史から考える炭鉄港」平野参加

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続に向けた取り組み

昨年に引き続き、太田清澄氏と島津忠裕氏の2名が当事業団の顧問となっております。

○地域シンクタンクとしての展開

- 3月 中国からの団体の受け入れに対するバス見学コースなど提案
- 6月 北海道自治研究所より、講演や空知のガイドに関する相談と実施
- 9月 企業史料協議会より、2日間の空知視察について行程、ガイド等の相談、意見交換会の実施
- 10月 「炭鉄港を活かした地域活性化戦略」検討会議、ワーキングチーム参画（平野、石川）
- 10月 「シューパロと炭鉄港、ガイド養成講座」開催

○教育機関との連携

炭鉄港に対する注目度は年々増してきており、出前授業や現地見学の実施、相談など、教育分野での活動も活発化しています。主な教育機関からの依頼としては次のようなものが挙げられます。

- 5月 郁文館高校 講座と駅周辺ガイド
- 5月 北海学園大学 炭鉄港出前講座 25名
- 6月 岩見沢市立中央小6年生62名 駅周辺ガイドとMCで講座
- 6月 岩見沢市立第一小学校5年生 MC訪問（2日間）
- 7月 岩見沢市立栗沢小学校6年生 万字線沿いバスツアー 炭鉄港出前講座
- 7月 台湾中華大学学生訪問5名（スティびばい依頼）
- 8月 夕張市立ゆうばり小学校 炭鉄港、夕張と室蘭の関係 25人
- 9月 全国高校図書大会
- 10月 岩見沢市立東光中学校 講演と万字線沿いバスツアー107名
- 10月 岩見沢市立日の出小学校 万字ズリ山登山
- 10月 岩見沢市立明成中学校1年生 地域取材 インタビュー対応

○日本遺産登録再審査に向けた支援

炭鉄港に関する活動は再認定に向けた取り組みと繋がっており、推進協議会からの相談等にも積極的に対応しております。12月の「日本遺産認定5周年記念フォーラム」では平野理事長が基調講演を行いました。

○各種フォーラム等の開催

- 9月 講演会「地層と炭鉄港」開催

○炭鉄港まちづくり講座の継続

太田顧問講師による「まちづくりゼミ講座」1月に第三回、3月に第四回目を実施

■市民団体連携事業

○《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携協力

様々な団体や場所での依頼が増加傾向にあります。主な活動としては次のようなものが挙げられます。

- 1月 芦別市 炭鉄港出前講座
- 3月 無印良品岩見沢店オープンの展示協力
- 7月 「炭鉱の灯り」22回目の実施。閉山から50年の朝日炭鉱敷地跡、朝日駅周辺で実施
- 7月 BRM720炭鉄港200（サイクリングイベント）石蔵をゴールに利用
- 10月 北海道開発局主催「共創による地域シンポジウム」登壇
- 10月 FMラジオカロスで炭鉄港PRの出演
- 10月 兵庫県議会議員団15名MC訪問

- 10月 由仁町 炭鉄港出前講座 20人
- 11月 栗山町 炭鉄港出前講座 30人
- 11月 札幌ストリームホテルへ「小樽石炭棧橋」の模型貸出
- 12月 イオン岩見沢店2階にて「2024年ぷらぷらまち歩き報告展」開始

○国内外の関係者・団体への対応

炭鉱や「炭鉄港」について問い合わせや取材など、多様なアクセスがあり、これに積極的に対応しました。

■拠点活動事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実

MC入館者数 2024年1月～12月 4,278名（2023年4,446名、2022年4,773名、2021年2,785名）

炭鉄港カード配布、炭鉄港めしスタンプラリーポイントになるなど、炭鉄港の発信の他、地域のワンストップ拠点としての機能を発揮することができ、重要な位置づけとなっています。開設15周年記念事業として、石蔵カフェとスライドミニトークを開催しました。

○石蔵での企画

- 4/3～5/31 「解体立坑」展
- 4・5月 「炭鉱マンのお話を聞く会」3回実施（幌内・齊藤氏、赤平・三上氏、夕張・西田氏）
- 5/31 「石炭と炭鉱を学ぶ」元住友石炭鉱業 高橋昭典氏 石蔵ゼミ
- 7/6 「夕張鉄道」夕張市石炭博物館石川館長 石蔵ゼミ
- 7/6～9/30 「北海道炭礦鉄道会社 岩見沢へ本社移転120年記念パネル展」
- 8/3 「人造石油」滝川市立第二小学校教諭 大井勇輝氏 石蔵ゼミ
- 11/18～3/16 「鳥瞰図」展

○その他

LINEによるゆうちゃんスタンプ発売開始、岩見沢市のふるさと納税返礼品に登録、鳥瞰図の販売開始等

■ヘリテージツーリズム事業

△炭鉄港推進協議会、岩見沢市観光協会、三笠市観光協会、シーブーツアーズ等から、炭鉱跡地ガイドツアーやまち歩きツアーの企画相談を受けました。

■石炭博物館事業

2024年シーズンは、石炭博物館指定管理受託2期目の2年度目（通算7年度目）でした。2023年シーズンはアフターコロナの観光需要の高まりを期待したものの、多様な観光資源への分散に加え、模擬坑道の再開延期による夕張来訪意向の相対的低下の可能性により、前年割れという厳しさを目の当たりにしました。2024年も模擬坑道の再開がさらに延期されることとなり、2023年にも増す厳しさが懸念されました。館の運営においては、シーズンを通じた開館ができました。事業計画時点では上記の厳しい状況にあることを踏まえつつも、昨シーズンを上回ることを目指して、有料入館者数の目標は16,000人（2023年有料入館者数の4.4%増）としました。

それに対して、入館者数は18,365人（うち有料は17,469人）、1階無料展示だけ利用の無入館（1,414人）を含めた来館者数は19,779人であり、有料入館者数で上記目標を9.2%、昨年比で14.0%上回りました。この状況は、特別企画展「夕張鉄道創立100年」が好評であったこと、その状況や博物館を高く評価する内容のSNSが多くのフォローを得たこと、日本遺産「炭鉄港」がJR東日本の情報誌やANAの動画などで全国に発信され認知度向上に貢献したことが、誘客増に功を奏したと考えられます。

新たな誘客の観点では、入館料を含むスペシャルぷらぷらまち歩き（歴史村）の回数を増加させ（昨年1回→3回）、夕張市及び当館への来訪機会および満足度、収入の増大を図りました。

また、展示環境や人的資源の点では、2020年から継続している各種の環境整備の取り組みや、石川館長ほ

か理事（平野、大橋、酒井）による交代助勤体制および、夕張市地域おこし協力隊員1名の派遣継続により、指定管理業務の着実な実施体制を継続しました。一方、入館者数の伸び悩みを踏まえた勤務体制のスリム化（シルバー人材センター勤務なし日の設定など）の継続、強化による運営コストの削減にも取り組みました。

○博物館の質的充実に向けた展開：

展示関連では、1階BANホールにおける特別企画展「夕張鉄道創立100年」を通期で開催したほか、「炭鉄港紹介パネル展示コーナー」の設置及びミニ絵画コーナーへの展示品を追加しました。2階常設展においてはJR夕張支線廃止5年に関連する物品及び夕張市作成の新規パネルの展示を追加しました。催事関連では、夏休み期間の「館内無料ガイドツアー」の実施、短冊に託す「七夕の願い」、秋クラフト企画「森の妖精パペットをつくろう」など、石炭、夕張、炭鉄港の情報発信拠点として多様な取り組みを開催することができました。その他、各種団体等の催事への参加・協力（下記）を通じて、博物館及び夕張の広報・PRに取り組みました。

<催事>

- ・「TAIKI OYAMA LIVE」大山泰輝、堀田雅子、畠中秀幸ライブ（6/4）
- ・「夕張メロンラン」協力：景品/入館券提供、参加者入館割引（6/30）
- ・「炭鉄港カード」第4弾の配付（7/1～10/31）
- ・「炭鉄港カード」No.64（ホログラム）『夕張鉄道』創立100年、入館者に配付（7/1～9/13終了）
- ・夏休み自由研究「夕張の石炭と炭鉱、ガイドツアー」（8/3～18の7日間）
- ・「夕鉄の記憶 伝承トーク」夕張鉄道創立100年記念（8/29）
- ・「歴史発掘クイズラリー」（7/1～10/20）

<取材>

- ・劇団エリィ 音楽劇「大正元禄ロックンロール家族1926」（1/4）
- ・HO別冊「ツウ旅 北海道2024」（4/15発刊）
- ・北海道新聞 特別企画展取材（4/18）
- ・NHK/札幌放送局 特別企画展取材（4/24）
- ・北海道新聞「来館10万人達成、記念セレモニー」（6/30）
- ・JAF MATE JAFデー（8/3）
- ・STV/札幌テレビ「北国トラベラーズ」（10/16）
- ・メーテレ/名古屋テレビ「石田鉄工」CM撮影（10/17）
- ・NHK/日本放送協会「タイムループ平成」（10/18）

■会務

○会員サービスの実施

2月の会員交流会の実施、イベント等での会員価格、先行予約の設定、6月の会員限定羽幌炭鉱見学バスツアーの実施など、会員サービスの向上に努めました。

○各種会員拡大に向けた取り組み

会員サービスの実施により、一般会員は60名の入会がありました。

○会員数

2024年12月末 総数=423名 昨年より44名増加（2023年末379名、2022年末343名）

運営会員=54名 昨年より4名減少（2023年末58名、2022年末53名）

一般会員=341名 昨年より48名増加（2023年末293名、2022年末266名）

賛助会員=28社 昨年と同数（2023年末28社、2022年末24社）

2024年度活動決算報告、監査報告

2024年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

2024年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	286,233	
郵便振替口座	2,174,389	
普通預金 ゆうちょ銀行	270,202	
普通預金 北洋銀行	3,024,681	
普通預金 空知信用金庫	60,320	
普通預金 北海道労働金庫	9,349	
普通預金 北洋銀行 [石博]	5,974,385	
現金・預金小計	11,799,559	
貯蔵品	272,262	
前払費用 [家賃]	150,000	
仮払金	251,578	
流動資産合計		12,473,399
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,619,745	
有形固定資産小計	161,377	
敷 金	50,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計		261,377
資産合計		12,734,776
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 [電力料・社会保険他]	1,514,766	
未払費用	554,555	
預り金	390,960	
未払い法人税	1,639,000	
未払い消費税	1,114,400	
流動負債合計		5,213,681
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		5,213,681
III 正味財産の部		
正味財産合計		7,521,095

2024年 その他事業会計 財産目録

2024年12月31日現在

該当事項なし

2024年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表
2024年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	286,233	
普通預金 ゆうちょ銀行	270,202	
郵便振替口座	2,174,389	
普通預金 北洋銀行	3,024,681	
普通預金 空知信用金庫	60,320	
普通預金 北海道労働金庫	9,349	
普通預金 北洋銀行 [石博]	5,974,385	
現金・預金小計	11,799,559	
貯蔵品	272,262	
前払費用 [家賃]	150,000	
仮払金	251,578	
流動資産合計		12,473,399
2 固定資産		
建物付属設備	199,100	
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,619,745	
有形固定資産小計	161,377	
敷 金	50,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計		261,377
資産合計		12,734,776
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金 [電力料・社会保険他]	1,514,766	
未払費用	554,555	
預り金	390,960	
未払い法人税	1,639,000	
未払い消費税	1,114,400	
流動負債合計		5,213,681
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		5,213,681
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産		6,807,577
2 当期正味財産増加額		713,518
正味財産合計		7,521,095
負債および正味財産		12,734,776

2024年 その他事業会計 貸借対照表
2024年12月31日現在

該当事項なし

2024年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書
2024年1月1日～2024年12月31日

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費		2,286,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金		733,080
3. 事業収益		
商品・書籍・飲食販売	3,694,911	
ガイドツアー	1,238,940	
業務受託	5,099,300	
指定管理	15,259,500	
入館料	12,171,768	
受託調査	998,800	
その他	288,150	38,751,369
4. 助成金		
5. 補助金		
地域づくり総合交付金		400,000
6. その他収益		
受取利息	2,598	
雑収益	0	2,598
経常収益合計		<u>42,173,047</u>
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	13,957,045	
法定福利費	1,731,069	
雑給	427,306	
人件費計	16,115,420	
(2)その他経費		
売上原価	2,598,841	
謝金	343,000	
通信費	464,958	
光熱用水費	8,383,119	
旅費交通費	1,238,368	
旅費日当	70,000	
広告宣伝費	98,000	
交際費	127,470	
会議費	143,536	
消耗品費	965,124	
図書費	84,200	
印刷費	366,295	
修繕費	191,980	
地代家賃	839,880	
保険料	374,336	

委託料		3,288,492	
租税公課		1,815,785	
諸会費		169,500	
賃借料		336,394	
支払手数料		233,205	
雑費		121,773	
減価償却費		53,792	
その他経費計		22,308,048	
事業費合計			38,423,468
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当		0	
役員報酬		1,380,000	
人件費計		1,380,000	
(2)その他経費			
謝金		0	
通信費		0	
旅費交通費		0	
会議費		17,000	
消耗品費		0	
租税公課			
支払手数料		0	
その他経費計		17,000	
管理費合計			1,397,000
経常費用合計			39,820,468
Ⅲ 経常外損益			0
税引前当期正味財産増加額			2,352,579
法人税・住民税・事業税			1,639,061
当期正味財産増減額			713,518
前期繰越正味財産額			6,807,577
当期正味財産合計			7,521,095

2024年その他事業会計 活動計算書
2024年1月1日～2024年12月31日

該当事項なし

参考資料

2024年度部門別活動計算書

2024年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書 【非収益部門】
2024年1月1日～2024年12月31日

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		2,286,000
2. 受取寄付金		733,080
3. 事業収益		119,178
経常収益合計		3,138,258
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費	4,060,171	
(2)その他経費	1,983,766	
経常費用合計		6,043,937
税引前当期正味財産増加額		△ 2,905,679

2024年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書 【収益部門】
2024年1月1日～2024年12月31日

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 事業収益		38,634,379
2. 受取補助		400,000
3. その他収益		410
経常収益合計		39,034,789
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	12,055,039	
(2) その他経費	20,341,282	
事業費計		32,396,321
2. 管理費		
(1) 人件費 (役員報酬)	1,380,000	
経常費用合計		33,776,321
税引前当期正味財産増加額		5,258,468
法人税・住民税・事業税		1,639,061
当期正味財産増減額		3,619,407

監査報告書

2025年02月07日

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

理事長 平野義文 様

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

監事 加藤 倫 朗



監事 三上 秀 雄



2024年01月01日から2024年12月31日までの2024年（第18期）における、会計および業務の監査の結果について、下記の通り報告いたします。

監査意見

1. 財産目録、貸借対照表および活動計算書は、会計帳簿の記載と一致し、特定非営利活動法人の損益および財務の状況を、正しく示しているものと認めます。
2. 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以 上

第3号議案 2025年度活動計画（2025年1月1日～12月31日）

本年は「炭鉄港」が日本遺産認定から5周年を経過し、次のステップへと向かう大事な年と位置づけます。その中で炭鉄港が地域に与える期待感が形成されつつあり、当 NPO の社会的責任がより高まってきていることを感じています。よって、これまで培ってきた活動を礎とし、当 NPO の使命でもある「炭鉱遺産を活用した地域活性化」を目指し、会員の皆様と共に力を合わせ更なる活発化ができるよう、積極的な仲間づくりと質の向上を図っていきます。

■出版事業

- ・炭鉄港公式ガイドテキストをベースに、新たなガイドブックの出版を目指す

■情報配信

- 〈会報誌〉年1回の「情報」発行・送付を実施する（必要に応じて臨時号も発行）
- 〈動画配信〉当 NPO の活動を身近に感じていただくと共に、炭鉄港等の価値の向上に資する YouTube 動画配信の継続実施
- 〈web〉主ホームページの適宜更新、各種 SNS の積極活用を継続する

■炭鉱遺産事業

- ・各種ぶらぶらまち歩きの実施
- ・奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み
- ・石碑等既存物に対する取り組み検討
- ・各種活動団体等との連携
- ・ドイツ・ルール地域協会の空知訪問対応

■学術支援事業

- ・歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流
- ・地域シンクタンクとしての展開
「空知地域地方自治体の地域再創造プラン（まちづくり計画）策定に係るサポート事業」検討
- ・教育機関との連携
- ・日本遺産登録再審査に向けた支援
- ・各種フォーラム等の開催
- ・炭鉄港まちづくり講座の継続（バスツアー型の講座を実施）

■市民団体等連携事業

- ・炭鉄港などを通じた他管内の機関・団体（企業含む）との連携協力
- ・各地活動主体と連携し「(仮称)炭鉄港 3-DAY」の実施
- ・国内外の関係者・団体への対応

■拠点活動事業

- ・そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実と認知度向上
- ・会員による運営支援の実施

■ヘリテージツーリズム事業

- ・必要に応じた協力を実施

■石炭博物館事業

- ・夕張市石炭博物館公式ガイドブックの出版を目指す
- ・令和6年度特別企画展「夕張鉄道創立100年」図録の出版を目指す
- ・模擬坑道再開に対応した展示、解説（ガイド等）の積極展開
- ・上記を踏まえた博物館の体制強化
- ・博物館の質的充実に向けた取り組み（展示内容の拡充、外部環境整備への協力など）
- ・特別企画展「(仮)坑道展示の楽しみかた」ほか各種展示及びイベントの開催
- ・夕張鉄道及び夕張線「さようならSL50年」に関する展示
- ・販売商品の拡充
- ・夕張市内の回遊・入込向上に向けた取り組み
- ・館内ガイドツアー、まち歩きツアー等の開催（支援・主催）
- ・教育関係行事等への支援・協力

■会務

- ・会員サービスの実施（会員特典の充実、研修の機会）
- ・各種会員拡大に向けた取り組み

第4号議案 2025年度活動予算

2025年 特定非営利活動に係る事業会計 活動予算書
2025年1月1日～2025年12月31日

科 目	金 額 (円)	主要な細項目 (千円)
I 経常収益		
1. 受取会費	2,300,000	運営500、一般700、賛助1,100
2. 受取寄付金	500,000	
3. 事業収益	35,000,000	物販3,000、CM31,000、ツアー1,000
4. 受託業務	6,200,000	三笠調査1,000、地域おこし5,200
5. 補助金	600,000	道地域づくり総合交付金600
6. 受取利息	0	
7. その他事業からの繰入金	0	
経常収益合計	44,600,000	
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費	14,000,000	MC4,000、CM10,000
経費 出版事業	300,000	仕入書籍売上原価50
遺産保全活用事業	300,000	
学術支援事業	800,000	三笠市調査700
市民団体連携事業	300,000	MC原価、市民活動支援
拠点施設運営事業	2,400,000	光熱用水費など経常経費
炭鉄港ネットワーク事業	1,000,000	
石炭博物館事業	15,000,000	
事業費小計	34,100,000	
2. 管理費		
人件費	4,440,000	
その他経費	4,060,000	会議旅費100、消費税2,060、事務委託1,900
管理費小計	8,500,000	
経常費用合計	42,600,000	
法人税・住民税・事業税	2,000,000	
当期正味財産増加額	0	
前期繰越正味財産額	0	
当期正味財産合計	0	

2025年その他事業会計 収支予算書
2025年1月1日～2025年12月31日

該当事項なし

第5号議案 役員改選（任期：2025年2月22日～2027年2月開催の定期総会終了時）

■候補者

【理事】平野義文（重任）

・現理事長、岩見沢市議会議員、岩見沢市在住

大橋二郎（重任）

・現副理事長、（有）大橋設備工業代表取締役、芦別市在住

植村真美（重任）

・現副理事長、北海道議会議員、コミュニティーガイドクラブTANtan代表、赤平市在住

酒井裕司（重任）

・現常務理事、イメージランドスケーププランニング代表、札幌市在住

石川成昭（重任）

・現常務理事、日本データサービス(株)、土木学会道支部土木遺産選考委員、札幌市在住

仲嶋憲一（重任）

・現理事、（一社）室蘭観光協会事務局長、登別市在住

上遠野敏（重任）

・現理事、札幌市立大学名誉教授、札幌市在住（三笠市にアトリエ）

北口博美（重任）

・現事務局長、岩見沢市在住

松田建夫（重任）

・現理事、自営業、札幌市在住

※理事長・副理事長は、定款第13条2項の規定により、
総会終了後に開催の理事会において理事の互選により選任

【監事】加藤愉朗（重任）

・現監事、植村建設(株)、赤平在住

三上秀雄（重任）

・現監事、コミュニティーガイドクラブTANtan名誉会長、赤平市在住

■変更の理由

新たな事業を開始するのに必要な法令で定める登記事項を担保する（第3条）。
 役員の名称を、職務内容に即したものに（第12条・第13条・第14条・第21条）
 下記、変更後の内容で議決の上で登記手続きを行いたい。

■変更の内容

現 行	変更後
<p>第3条（活動の種類および事業）</p> <p>2 第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。</p> <p>(1)特定非営利活動に係る事業 ①～⑥（記載省略） ⑦前の各号の事業に付帯する事業</p>	<p>第3条（活動の種類および事業）</p> <p>2 第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。</p> <p>(1)特定非営利活動に係る事業 ①～⑥（現行どおり） ⑦<u>旅行業法に基づく旅行業</u> ⑧前の各号の事業に付帯する事業</p>
<p>第12条（役員）</p> <p>3 理事のうち、副理事長2名以内および<u>常勤理事</u>若干名をおくことができる。</p>	<p>第12条（役員）</p> <p>3 理事のうち、副理事長2名以内および<u>常勤理事</u>、<u>常務理事</u>若干名をおくことができる。</p>
<p>第13条（役員を選任）</p> <p>2 理事長、副理事長および<u>常勤理事</u>は、理事の互選により定める。</p>	<p>第13条（役員を選任）</p> <p>2 理事長、副理事長および<u>常勤理事</u>、<u>常務理事</u>は、理事の互選により定める。</p>
<p>第14条（役員の職務）</p> <p>3 <u>常勤理事</u>は、運営委員会に参加し、この定款の定めおよび運営委員会の議決に基づき業務を執行する。</p>	<p>第14条（役員の職務）</p> <p>3 <u>常勤理事</u>、<u>常務理事</u>は、運営委員会に参加し、この定款の定めおよび運営委員会の議決に基づき業務を執行する。</p>
<p>第21条（構成）</p> <p>3 運営委員会は、理事長、副理事長および<u>常勤理事</u>をもって構成し、事務局長も陪席する。</p>	<p>第21条（構成）</p> <p>3 運営委員会は、理事長、副理事長および<u>常勤理事</u>、<u>常務理事</u>をもって構成し、事務局長も陪席する。</p>

■変更の時期

この定款変更は認証日から施行する。